

# News Letter

第34号

2023年12月

発行：公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団 〒105-0014 東京都港区芝3-16-13 MARUWAビル 2階  
TEL：03-5419-6513 FAX：03-5419-6514 URL：http://www.mwf.or.jp E-mail：info@mwf.or.jp

## 令和5年度 事業状況のご報告

今年は助成事業、コンクール事業、ワークショップ事業、学生ワークショップ事業を実施いたしました。助成事業では、コロナ前よりも多くの応募が寄せられ、新たに選考された助成作品も、過去に延期となっていた作品も無事実施できており、コロナ共存下、フラメンコ界の順調な滑り出しを感じます。

CAF フラメンコ・コンクールは今年で12回目を迎えました。今回初めて参加される若き舞踊家も多く、そのレベルの高さから未来に期待が膨らみます。コンクールでは参加特典として、演奏者の無償提供、本選出場者へスタジオ無償貸出や審査員の批評フィードバックを実施しました。演奏者提供を希望する参加者は多く、改めてこの取り組みの意義を感じます。本選のエキシビジョンでは過去の優勝者の作品披露と、審査員も務めたアデラ・カンパージョの演技に会場が沸きました。今回は劇場確保に苦勞し、平日開催となりましたが、ご来場のためにご予定を調整してくださった皆さまに心より御礼申し上げます。アデラ・カンパージョはコンクール終了後も名古屋と東京のワークショップの講師を務め、盛況のうちに終えることができました。

今年も一年、皆様のお力添えのお陰で事業を実現することができました。心より御礼申し上げます。来年も皆さまの益々のご発展をお祈りすると共に、私共もより一層フラメンコ界を盛り上げるべく活動を続けてまいります。



## 海外派遣 研修生の報告書

第11回 CAF フラメンコ・コンクールで海外留学賞を受賞された宮北 華子さんから、クリスティーナ・ヘーレン財団留学の報告書が届きましたので、ご報告いたします。

昨年9月より、セビージャ、クリスティーナヘーレン財団にて研修をスタート、フラメンコ漬けの充実した半年を過ごすことができました。生活拠点はトゥリアーナ。美しいトゥリアーナ橋に毎日感動しながら、自主練習やクラスに通っていました。財団ではフラメンコをテクニカルや振付の他、構成や歌、リズムなど多角的に学びました。舞踊家はもちろん、第一線で活躍されている歌やギターの先生方のクラスを受講できたこと、世界各国から集まったクラスメイトたちとともにフラメンコと向き合える貴重な環境で、濃い半年間を過ごすことができました。また、ピエナルとヘレスフェスティバルの時期が留学と重なり、劇場・タブラオ・ペーニャなど多くの作品を鑑賞できたことも財産です。休暇中にはスペイン各地の世界遺産や美術館を訪れたり、同居のスペイン人や学校の友人とフィエスタをしたり、スペイン文化に触られました。留学後半には幸運なことにタブラオへの出演や国際コンクール「Concurso Internacional de Baile Flamenco Puro」に挑戦する機会に恵まれました。仲間や先生方に助けていただき、コンクールでは特別賞をいただくことができました。

今回の留学では、振付やテクニックだけではなく、作品の作り方、より良く踊る方法をクラスやスペインでの生活全般を通して総合的に学ぶことができました。日本では、今まで夢中で稽古をしてきましたが、思い描く理想とはかけ離れた自分に行き詰ることも多々ありました。今回たくさん刺激を受ける中で、解決の糸口がほんの少し見えたような気がします。フラメンコの温かさと厳しさを知り、更なる探求心が深まりました。また、改めて芸術によって人を豊かにできることを実感し、深く関わっている自分の人生を誇りに思うことと、本質を発信すべき責任を感じています。このような貴重な機会をいただきましたこと、応援して下さる全ての方、MARUWA 財団の皆様改めて感謝申し上げます。



国際コンクールにて特別賞を受賞  
撮影者 Enrico Maranzana

昨年末の講師メルセデス・コルドバのクルーシージョの参加者より報告書を頂きましたので、ご報告いたします。  
「インテンション！（意志を持って!）」メルセデスの声が響く。振付がどうあるかではない。どう踊るか、どう感じるか。石川 慶子

メルセデスと最初に会ったのは2012年。ライブでの共演がきっかけ、コンクール用のシグリージャにアドバイスをもらった。2014年には渡西し、ウニオン用のタラントを個人レッスンしてもらった。「大切な人が自分の手からすり抜けてしまったように踊って。」惜しみなく与えてくれた。今でもその2曲を踊っている。そして今回、ソレア。10年の時が経っても、メルセデスが大切にすることは変わっていなかった。上体を引き上げて、でも下半身は床を押して。歌詞に心を乗せて。例えば「ジャマーダから踊ってください」と指示を出すところ、彼女は「私はジャマーダから踊ります」と自分を主語に話す。（スペイン語の活用の違い）。彼女も生徒とともに踊っているのだ。

こんな素晴らしいクルーシージョを開いてくれた MARUWA 財団には本当に感謝している。数年ぶりに、またこうして全国から仲間が集まった。毎日メルセデスと打ち上げしちゃう私たち。みんなフラメンコが大好きで、優しく温かくて、自分と闘ってる。

メルセデスに「レッスン中すぐ踊ろうとしない！もっとよく見て！習い方をもっと考えて！」と叱られ、彼女の踊りを食い入るように見つめる私たち。真剣に踊ってくれた後、すぐ次に進もうとするメルセデス。先生、目と頭で理解してすぐに踊れるくらいなら私たち、もっと踊れます！（笑）久しぶりに受けるレッスンにてんてこ舞いになりながらも、「ああ、これ、私も生徒さんに同じこと言ってる！」と不思議な気持ちがあった。10年前メルセデスが与えてくれた種は私の中でしっかりと育っている。



撮影者 財団スタッフ

## 令和2年度助成作品報告

新型コロナウイルスの影響で延期となっていた助成作品より公演の感想が届きましたので、ご報告いたします。

### 工藤朋子フラメンコリサイタル『時と血と地と』VOL.3

2022年11月8日・9日 パルテノン多摩小ホール

工藤 朋子

この度、工藤朋子フラメンコリサイタル vol.3『時と血と地と』、MARUWA 財団様のお力のもと、そして関わって下さった皆さまの協力のもと2日間の公演無事終えることができました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

スペイン留学を終えてすぐの開催予定でしたが、自身の怪我であったり、コロナ禍にみまわれ、なかなか出来なかったこのリサイタル。自分のルーツでもある青森の土地から生まれた、津軽三味線の「じょんがら節」をフラメンコで踊りたいという、長年温めていた夢がやっと実現しました。そして今回参加して下さったリコーダー奏者の濱田芳通さんとの出会いにて、ルネサンス音楽とフラメンコと邦楽が見事にマッチする壮大な音楽のもと、ただひたすら身体を委ね、魂を燃やし踊らせて頂きました。

舞台は打ち上げ花火のようでそこに至るまで、大切に時間をかけ濃密に過ごせば過ごすほど一瞬です。これからまたその大きな一発の大花火を打ち上げるための旅が始まります。全てを行き来する悠久の”時”、フラメンコに捧げる敬愛の“血”工藤朋子という人間を育ててくれた“地”『時と血と地と』このテーマを胸に刻み、フラメンコを軸とし、新たな出会いにも胸を膨らませ人生一路この道に愛を抱き続けてこれからも踊っていきます。本当にありがとうございました。



撮影者 川島浩之

## 令和4年度助成作品報告

### 大沼由紀新作舞踊公演『音の旅人2』

2022年11月2日 座・高円寺2

大沼 由紀

「音の旅人」は、昨年コロナ禍で諸々の条件が整わない中生まれた作品です。スペイン人招聘の可能性が閉ざされ、しかしそれは己を見つめ直すきっかけを与えてくれたようにも思います。自分の裡から湧き上がるものを信じて、日本人アーティストと時間をかけながら作品を育てていきました。

昨年（2021年）は感染予防対策で50%の客席数だったこともあり、是非再演をというありがたい声を多く頂戴いたしました。その声に励まされ再演を決意。時間の流れとともに変化する心の動きのまま、再演ではありましたが、歌い手を1人新たに迎え、作品も動いていきました。

再演は一から作った公演よりも大変だったように思います。出演者全員が前回よりも納得するために、そして昨年観てくださったお客様にも満足していただけるように、全てにおいてもっと先がある、もっと研ぎ澄ませねば、と進んでいきました。それはなかなか厳しい道のりで、またそれがどれだけ大事であるかを実感する日々でしたが、じっくりと作品と向き合い、熟成させる時間を与えられたと感じています。

未だコロナ禍が終息しない中、無事に公演を終えられたこと、そして何よりこの助成の支援により舞台が実現できましたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。



撮影者 川島浩之

## 『2023年東京大学フラメンコ舞踏団卒業公演』

2023年3月18日 アルハムブラ

東京大学フラメンコ舞踏団

大学生活で4年間フラメンコを踊ってきて、その集大成として卒業公演を開催した。私が踊ったのはガロティンとソレアポルブレリアの2曲。そのうちソレアポルブレリアは過去に学園祭で一度踊ったことのある曲だ。振りは学園祭で踊った時のものを使い回した部分と新たに先生につけていただいた部分があり、前者では当時は思い浮かばなかったような改善点に気づけたりして自分の成長を感じられたりした。ガロティンは帽子を使った。帽子を使った踊りには今回の卒業公演が初挑戦だったので勝手が分からず難しかったが使ってみるととても面白い道具だと思った。

過去に踊った振りをもう一度踊ると新たなことの気づき、使ったことのない道具や踊ったことのない振りを知って新たな知見を得られる。4年間フラメンコをやって、4年前と比べても随分上達したと思うが、4年間の集大成というよりむしろ、究めるべきポイントがたくさん見つかった卒業公演だったと思う、今回の公演を一区切りとしつつもこれで終わりとせず、折を見て未永くフラメンコを続けていきたい。



撮影者 林 亜矢子

## 令和5年度助成作品決定

応募者・作品名	決定助成金額	公演予定日
徳田 志帆 「シマ唄とフラメンコ」	150万円	2023年8月3日 於：アルハムブラ 2023年8月4日 於：BRICK HALL（福岡県） 2024年2月18日 於：かごしま県民交流センター中ホール
榎本 了吉 「アレコホール特別フラメンコ公演 悲しきアレコ」	60万円	2023年9月17日／18日 於：青森県立美術館
本田 恵美 「棘の多い薔薇たち vol.8 《A flamencamiento～フラメンコは深化する》」	60万円	2024年2月（未定） 於：新宿ガルロチ
石塚 隆充 「カンタオール石塚隆充スペイン語歌曲を歌う」	30万円	2023年11月8日 於：丸の内・コットンクラブ
東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会 「東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会第30回リサイタル」	30万円	2023年4月28日 於：三鷹芸術文化センター 星のホール
東京大学フラメンコ舞踏団 「令和5年度 東京大学フラメンコ舞踏団 五月祭公演」	10万円	2023年5月13日／14日 於：東京大学本郷キャンパス工学部広場ステージ

令和5年度助成作品は上記6作品に決定いたしました。うち以下の3作品より公演の感想が届きましたので、ご報告いたします。

### 『アレコホール特別フラメンコ公演 抱擁の哀しき果て』

2023年9月17日・18日 青森県立美術館アレコホール 青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会

青森県立美術館に展示しているシャガール作の舞台背景画「アレコ」をテーマに、ロマの娘ゼンフィラに惚れた貴族の青年アレコが、若い男に心変わりしたゼンフィラとその男を殺してしまう悲劇をフラメンコ、津軽三味線、ピアノの演奏で構成しました。工藤朋子さんがロマの娘ゼンフィラを、三四郎さんがアレコを演じ、第一部では2人が出会い恋に落ちる場面を、第2部ではすれ違う2人と嫉妬にかられた人間の深淵を踊りで表現しました。

来場された方からは、「アレコ舞台背景画の前での表現だったのでストーリーに入り込んで鑑賞できたところが格段に良かった」「ピアノや津軽三味線のコーポによる新鮮さや青森らしさを感じる他にはない公演になっていた」「初めて生でフラメンコを見たが、ダイナミックで2人の掛け合いが絶妙だった」との声が寄せられました。青森県ではフラメンコ公演が開催される機会が極めて少ないことから、今回の公演はフラメンコを普及する機会となったとともに、「アレコ」のストーリーについて知っていただく契機になり、「アレコ」と「フラメンコ」双方の魅力を県民のみならずみなさまに体感していただけたと感じています。

今回の公演を実施するにあたり、助成いただいた MARUWA 財団の支援に心から感謝申し上げます。



撮影者 美術館職員

## 『東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会 第30回リサイタル』

2023年4月28日 三鷹芸術文化センター星のホール

東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会

毎年恒例となりました春のリサイタルも、今年で30回目を迎えました。節目となる公演を無事終演できましたことを、部員一同心より感謝申し上げます。コロナ禍では活動が制限され、YouTubeでの動画配信を強いられた年もありました。お客様の前で踊るのが決して当たり前ではなかったからこそ、昨年度に引き続き対面で披露できましたことに、喜びを感じております。スポットライトを浴び、お客様のハレオを頂きつつ踊ることはとても楽しく、今後の練習のモチベーションにも繋がりました。今年11月には外国語公演を予定しており、部員は新たなヌメロの練習に励んでおります。ぜひ今後の活動も応援のほどよろしくお願いいたします。

リサイタル開催にあたり、日々私達を暖かく見守ってくださった皆様、ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。最後になりましたが、MARUWA財団には毎年ご支援をいただいております。今年も多大なご支援をいただきましたことに、この場をお借りしてお礼申し上げます。



撮影者 鈴木 圭介

## 『東京大学フラメンコ舞踏団 五月祭公演』

2023年5月13日・14日 東京大学本郷キャンパス

東京大学フラメンコ舞踏団

ここ数年、様々なコロナウイルスの影響を受けてきましたが、我がサークルも例外ではありませんでした。無観客でのパフォーマンスを余儀なくされ、ずっとお客様の前で踊りたいという気持ちを募らせてきました。今年度の五月祭は、晴れて入構制限のない形態で開催され、大勢のお客様が来場しました。コロナ禍と仕様が違うため、準備の面で苦労したこともありましたが、いざ本番でたくさんのお客様の姿を目にすると、すべての苦労を忘れるほど心が躍りました。客席から拍手や盛り上げる声が聞こえたり、楽しそうに笑っている人々の顔が見えたりして、非常に活力をいただきました。公演終了後、お客様のもとへご挨拶に伺った時、「楽しませてもらいました」や「感動しました」などのお声をいただき、やりがいを感じたのと同時に、フラメンコは演者も観客も元気にする力があると改めて認識しました。

パフォーマンスは全くミスがなかったとは言えませんが、部員一同楽しんでいるのがよく伝わりました。カンテやカホン、ハレオは練習の時よりも盛り上がり、バイレも曲ごとにその雰囲気を変えようとして頑張れたと思います。特にグアヒーラという演目は、アバニコを使うことで華やかさを演出できました。

本公演を経験し、お客様に観ていただける喜びを実感しました。どうすればお客様に楽しんでもらえるパフォーマンスができるかを考え、今後も練習を重ねていきたいと思います。



撮影者 林 亜矢子

## 令和6年度 助成事業 募集案内

### ■助成金

〈プロ枠〉総額 300万円 〈学生枠〉総額 50万円

### ■助成対象

2024年4月1日～2025年3月31日までに終了予定のフラメンコやフラメンコ音楽の普及、向上につながるような個人或いは団体が主催する国内公演、イベント企画(プロ枠)、学校の部活やサークルなど学生が運営する国内公演、イベント企画(学生枠)で、他機関からの助成を受けていないもの。過去に当財団の助成を受けた場合でもご応募いただけます。

### ■応募方法

当財団ホームページの助成事業のお問い合わせフォーム(<https://mwf.or.jp/contact/>)より「助成応募用紙」をお申し込みください。応募用紙に活動の企画、予算、過去の芸術活動等を要約してご記入の上、台本或いはプログラム構成、過去の公演ビデオ又はDVD(10分間)と共にご郵送ください。

### ■応募受付期間

2024年1月8日(月)～2月8日(木)17時【必着】

### ■選考結果

意欲的で優れた公演、イベントの企画に対して、財団の選考委員による厳正なる審査結果を2024年3月31日(金)までに各団体宛に通知いたします。尚、助成金支給は公演終了後1か月以内の報告書、写真、印刷物等の提出により実施されます。

### ■お問い合わせ先

公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA財団

〒105-0014 東京都港区芝3-16-13

MARUWAビル2階

Tel.03-5419-6513

Fax.03-5419-6514

E-mail [info@mwf.or.jp](mailto:info@mwf.or.jp)

URL <http://www.mwf.or.jp/>